

重症 COVID-19 での死亡率に対するトシリズマブ投与の効果

[Impact of tocilizumab administration on mortality in severe COVID-19](#)

Tsai A, Diawara O, Nahass RG, et al.

【Sci Rep. 2020 Nov 5;10(1):19131】-peer reviewed(査読済み)

(要旨)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界的大流行は、病院や医療従事者にとって大きな重荷となっている。この疾患に対する免疫反応は過剰な炎症反応、すなわちサイトカインストームを引き起こすと考えられ、それが疾患の重症化の一因となっている。トシリズマブの使用がCOVID-19患者にベネフィットをもたらすか否か確定することが喫緊に必要である。2020年3月1日～5月5日に医療施設を退院したかまたは死亡したすべてのCOVID-19患者を対象とし、単一施設での傾向スコアマッチングによるコホート研究を実施した。患者はサイトカインストームへのトシリズマブ投与によって層別化され、傾向スコアを使用して対照群とマッチングされた。主要アウトカムは院内死亡率とした。計274人の患者に対して適格基準と除外基準を適用し、132人がマッチングデータセットに組み入れられた(トシリズマブ投与群66人;トシリズマブ非投与群66人)。患者の約73%が男性であった。最も多くみられた併存疾患は、高血圧(55%)、糖尿病(31%)、および慢性肺疾患(15%)であった。トシリズマブ投与群で18人(27.3%)、トシリズマブ非投与群で18人(27.3%)が死亡した[オッズ比1.0;95%信頼区間(CI)[0.465～2.151]; $p=1.00$]。死亡患者では、高齢、心筋梗塞の病歴、認知症、慢性肺疾患、心不全、および悪性腫瘍が有意に多くみられた。今回の解析はCOVID-19患者のサイトカインストームの管理におけるトシリズマブの使用を支持していない。さらに多くのエビデンスが得られるまでは、この治療薬の使用は臨床試験に限定されるべきである。